

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1191400082
法人名	株式会社ふれあい広場
事業所名	ふれあい多居夢 藤
所在地	藤市中央3-15-22
自己評価作成日	令和6年9月20日
評価結果市町村受通日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番6号
訪問調査日	令和6年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開所して8年目を迎えたホームです。1Fは小規模多機能型居宅介護ホーム、2Fには認知症対応型グループホームが併設されています。JR藤駅から徒歩5分で商店街に隣接したホームです。協力医、薬局が隣接されており、協力医や薬剤師、訪問看護事業所と連携を図りながら、入居者様が安心して暮らせるよう協力体制を構築しています。コロナウィルスの影響もあり外出やボランティアの受け入れは現在も制限を設けている状況が続いていますが、コロナ前は積極的な外出を心掛け、商店街に出向いたり、交流が図られていました。令和6年10月18日に地域のお祭りがあり、御神輿が事業所駐車場を練り歩いてくださるとのことです。地域の中で運営させて頂いていることに感謝すると共に、地域や家族交流を促進し地域密着型サービス事業者として地域に貢献できるよう努めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・入居者の入れ替わりがあり、介護度が低くなったことで、「グループホームとほどういう役割か」を考えて、再度「自立支援」を目指した取り組みが行われている。日常生活でできることはやっていただき、家事なども一緒にやり、入居者の生活意欲の向上にも繋がっている。また、自治会長や民生委員を中心に地域との交流も良好で、いろいろな意見、アドバイスをいただき、事業所運営にも活かされている。
・運営推進会議については、家族や地域の代表の方、市担当者など幅広い参加者を得て開催され、参加者からは入居者の生活に即した発言がなされ、地域とのつながりや事業所運営に反映されている。
・目標達成計画については、令和5年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策での地域との協働体制作りや外出機会を増やすことに取り組まれ、自治会の消防訓練に参加したり、日常的な外出頻度を増やすなど、達成に向けた取り組みが続けられている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を選んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど選んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・ホーム目標を事務所に掲示しており、いつでも確認し認識できるよう努めている	地域との交流を大切に入居者とは笑顔で接することを理念に鑑み、ホームの目標も設定されている。全体会議で理念を読み上げ、職員は「何かあったら理念に立ち返る」よう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスもあり、地域行事の参加は難しいが、運営推進会議、「ゴミO」運動、お祭りでの交流等地域との繋がりを大切にしている	民生委員や自治会長を通して地域とのつながりを大事にされ、密につきあいが行われている。地域の祭りのお神輿の休憩所に事業所を使っていたき、入居者とのふれあいを楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方にホーム内の様子を報告し、理解していただけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催しており、利用者様とホームの現状報告や取組状況を報告している。地域の情報提供や参加者との意見交換等を行っており、サービス向上に努めている	集合形式で定期的に開催され、家族や地域の代表者、民生委員のほか、地域包括支援センター職員と市担当者も交替で参加いただいている。家族や民生委員からは生活に即した発言もなされ地域とのつながりや事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議に参加してもらっており、新しい情報や意見等を頂いている。相談・報告や不明な点は随時連絡をとっており、良い協力関係を築くよう努めている	日常的に連携が図られ、電話を通して情報交換が行われている。市担当者のほか地域包括支援センター職員とも協力体制がとられ、運営上の疑問点などの相談もスムーズになされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定め定期的に会議や勉強会を開催。不適切なケアや拘束になりうる行為を理解・把握し、身体拘束を行わないよう心掛けている	身体拘束廃止委員会主導で虐待の芽チェックリストを実施し、出来ていないことを集計し、その月の目標に掲げるなどして職員への周知に努められている。また、新人職員の「感覚ズレ」にはその都度管理者が指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員は、虐待防止委員も兼ねており、指針を定め定期的に会議や勉強会を行い虐待防止について学んでいる。他職員がケアや声掛けの中に虐待や不適切なケアがなかったか意識して防止に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は、なかなかないが、相談があれば市に繋げたり支援している。今後も定期的な知識の振り返りをしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項・契約等について、利用者様やご家族に不安な点や疑問点を確認しながら丁寧に説明をしている。いつでも相談できる関係性を築くよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日々の関わりの中で、ご家族様とは面会時に意見や要望を伝えて頂いている。意見箱や運営推進会議等で意見や要望に対して検討し、サービスの質の向上や運営に反映させている	入居者とは日常生活の中で要望を聞き、できることはすぐ対応されている。家族とは面会や運営推進会議で「外出させてほしい」「請求書の郵送について」などの発言をうけ、相互のコミュニケーションも図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議の中で、スタッフ間での意見交換をおこなっている。そこでの意見等を管理者に上申できる環境である	介護の方法、例えば睡眠剤などの薬の使い方などを職員間で意見を出し話し合い、より良い方法を見つげられている。またイベント企画などでも管理者は社歴や役職に関係なく考えやアイデアを聞き、要望にも応えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内において能力開発ラダーを実施。ロシックでは、スタッフが個人の目標を定め、振り返る機会を設け、各自が向上心を持って勤務できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の介護技術が向上するように会議や勉強会で学ぶ機会を設けている。得た知識を発表することで、知識の共有・向上に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する機会を設け、同業者との交流を通じて、サービスの質の向上に努めている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことや困っていることを受け止め、ご本人様が求めるニーズに合わせた、最適なケアを提供できる環境づくりを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から、ご本人に対する要望やホームに対するケアについてのご意見を聞き、思いをしっかりと受け止められるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施しご本人様とご家族様が、何を必要としているのかを見極め、スタッフ間で話し合いを行い、良いケアへと繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただケアをするだけでなく、支援の中で本人が生きがいを感じられる雰囲気づくりに努め、感謝の気持ちを持ち信頼関係を築けるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が再開し、穏やかに過ごせる環境づくりに努めている。ホームでの様子をお伝えし、情報交換をしている。状態が変化した時や何かあったときは、その都度ご家族様へ連絡を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以降外出は控えているが、ご家族様と短時間での外出や自宅へ一時帰宅している。利用者様との会話から昔のことを思い出せるように努めている	昔馴染みの親戚が集まる法事などに出かけられたり、遠方から兄弟が来られるなど、以前からの関係継続への支援がなされている。また事業所内ではなつかしい写真や歌を流し、思い出話をしながら楽しんでいる光景もみられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性等を考慮して、席の配置や声掛けを行い、スタッフの介入で利用者様同士の関係性がうまくいくように努めている		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、ご家族様との交流は少ないが、「ここにお世話になって良かった」と言う言葉を頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話や様子から、本人の思いや希望を把握するように努めている。意思表示が困難な方は、日々の様子や表情等から意思を組み取るようにしたり、ご家族様とコミュニケーションを図り、情報を得るように努めている	入浴介助時や就寝前の時間に、入居者とゆっくり話をし思いを聴き取られている。また、「発症経過ノート」によりその人のバックグラウンドを知り、それをきっかけに話を伺い、意向や希望の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から、本人が経験してきたことや誇りに思っていることを聞き出し、生活歴や習慣等の把握に努めている。ご家族様からも話を聞いたり、その方のライフスタイルの継続に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に、その日の様子や心身状態等を記録している。申し送りやカンファレンスで職員間で情報共有できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議でケアプランを基にカンファレンスを行い、意見交換をしている。ご家族様の思いや、主治医・看護師の意向等も含め、対応についての支援内容を決めている。それをケアプランに反映させている	それぞれの入居者のニーズ、課題を明確にして目標設定され、具体的なサービス内容まで一貫したケアプランが作成されている。生活日誌の記録にプラン内容実施のチェックを行い、フロア会議でのモニタリングで適正かどうかの振り返りがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、その日の様子や状態、職員の対応等も含め記録するようにしている。申し送りで情報を引き継ぎ、また会議で支援の結果について話し合いケアプランの見直しなどをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いは、基本的にはご家族対応となっている。ご本人やご家族の状況に応じて必要な支援は、臨機応変に対応するようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で、地域活動への参加が難しい状況だが自治会等に相談し協力を得ている。職員と利用者様共同で消防訓練を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接のみなと医院が主治医であり、月2回の往診と臨機応変に対応下さっている。些細なことでも相談できる関係性が構築されている	かかりつけ医への受診同行は家族が基本とし、文書などで症状を医師に伝えられているが、状況に応じて職員が同行し、より確実に伝えられている。日常的には隣の医療機関と連携し、早い対応がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	わらび・とだ訪問看護ステーションの週1回訪問があり、生活状況を報告、日々の体調の変化などを伝え介護職との連携に努めている。24時間夜間緊急時でも連絡体制が整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合、ご家族様と常に連絡を取り合い支援を行っている。入院中には随時、家族やSWに状態確認を行う。退院前から、各機関と情報を共有し受け入れ体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の近い方については、ご家族や主治医とカンファレンスを行い、ご家族のご要望やホームとしての支援体制を確認し対応している。主治医・訪問看護ステーションと連携をとり支援している	家族、医師を含め重度化に際しての話し合いが行われ、希望にも応じながら方針が決められている。また看取り後、職員が燃え尽き症候群にならないようにそれぞれにアンケートを行い、フロア会議で話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、対応について把握し緊急時や事故発生時には迅速な対応ができるよう準備をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を入居者と一緒に避難訓練や、消火訓練を行いBCPの周知を実施。また消防機器の点検や備蓄品の点検を定期的に行い、災害時に備えている	BCPを完備し、それに基づいた机上訓練が実施され、内容の理解と周知に取り組まれている。また自治会の消防訓練にも管理者とリーダーが参加され、さらに地域の方の参加を目指し、民生委員への声掛けも検討されている。	BCPへの理解は災害対策において重要と想定されることから、ひとつひとつの項目に優先順位をつけ訓練も含めて定着化していく取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、丁寧な声掛けや対応を心掛けている。援助が必要な時は本人の気持ちを考慮し、誇りを傷つけないよう配慮している。また対応マナーチェックリストを定期的に実施している	「対応マナーチェックリスト」を実施し、「入室時」、「介助、業務時の対応」、「スタッフマナー」などの項目の振り返り、再確認が行なわれている。必ず「失礼します」と声をかけることで信頼関係が築かれ、入居者にも安心していただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一人ひとりの状態に合わせた声掛けをし、本人の思いや希望を表現しやすいように、また意思決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはだいたい決まっているが、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。その時の体調や気持ちを尊重するように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様によって一緒に服装を選んだり、自己決定が難しい方には季節にあった服装を支援している。日々の整容、爪切りなど清潔の維持に心掛けている。定期的に訪問理美容を受けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの咀嚼能力に合わせた食事メニューを提供している。出来る方には、テーブル拭きや洗い物を一緒に行うようにしている	生ものも提供され、季節の行事、「重陽の節句」「十五夜のおやつ」などを取り入れた食事が提供されている。入居者と一緒に作ることは出来ないが、テーブル拭きや洗い物などを手伝っていただき役割を楽しんでいる。	食事は入居者にとって楽しみのひとつと想定されることから、月に1日位外食や出前、散歩のついでにスーパーで食材を買い物するなど入居者が楽しめる非日常的な食事が提供される取り組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量が一日を通じて確保できるように記録に残し、そこから読み取りスタッフ間で情報を共有し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。出来ない方にはスタッフが介助をしている。訪問歯科医の往診もあり、歯科衛生士から助言を聞き日々のケアに取り入れている。食事前には嚥下体操をおこなうようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を記録して排泄パターン等を把握する、その方の現状に合った排泄介助や排泄リズムを把握し実践している。可能な限りトイレでの排泄を支援している	「可能な限りトイレでの排泄」を基本に支援され、職員2人で介助にあたることもあり、自立支援に取り組まれている。失敗された時は自尊心を傷つけないように羞恥心に配慮するなど、安心感へのフォローがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り時に排便状況を把握し、水分や牛乳などを提供している。往診時に便秘について相談を行い、必要時には下剤を服用し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、快く入浴していただけるように努めている。入浴したくないと言われた際には、タイミングをみて、再度声掛けに工夫をして対応している	シャワー浴も含めて週2回のペースで入浴いただき、入居者の気持ちを大切にタイミングの良い声掛けがなされている。自立度の高い入居者にはやれることは自分でやっていただき、職員はできないことを手伝うなどの自立支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、夜間ゆっくりと休んで頂くために、日中は、なるべく活動して頂いている。一人ひとりの体調をみながら、臥床時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、容量、副作用がわかりやすく記入された内服ファイルを活用している。内服に変更があった時は、ファイルの内容変更とスタッフ間で情報共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来ることを把握して活動に生かせるようにしている。家事の手伝いや創作レクリエーションなど楽しみの時間の提供に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が難しいが、玄関のそとで日光浴や体操を行い気分転換が出来る工夫をしている。今後は散歩の時間を取るように、検討していく	外に出て入居者の気分転換に努められ、日光浴や外気浴、体操など日常的に支援されている。遠くに出かける頻度は少ないが、職員が様々な工夫を行い、花を見に行く「降りないドライブ」などを楽しまれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は所持している方はいない。購入希望のものがあれば、事業所から立て替えて使用できるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望や家族から電話が来た際には、本人と会話する時間を設けるなど、家族との交流を図っている。いつでも電話を掛けることが出来る体制にしてある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が居心地良くなるようにTVやCDの音量、室内の温度や湿度の管理に配慮している。創作レクで作成した作品など季節感を感じられる飾りつけをおこなっている	入居者は共用部で集まって過ごされることが多く、レクリエーションや作品作りなどを楽しまれている。季節感や生活感も感じられ、また、入居者がモップかけを手伝うなど清掃にも気を配り、衛生面、健康面にも力を入れた共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を配慮し、席の配置を考慮している。独りになれたり、それぞれの居場所を確保出来るよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活されていた時のなじみの家具や写真を用意して頂くよう、ご家族に伝えている。本人の飾りたい物を飾ったりと、安心した気持ちで過ごせるよう工夫している	居室内では自由に過ごされ、横になってテレビを視たりすることが多く、それぞれのペースで生活されている。また、入居者の動きや身体状況に合わせた動線の確保もなされ、安全面への配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には必要な個所に手すりを設置し、安全性に配慮しながら生活が送れるよう配慮している。各居室には表札を掲示したり、トイレやお風呂場にもマークと文字を掲示し、一目でわかるようにしている		

(別紙4(2))

事業所名:ふれあい多居夢蔵

目標達成計画

作成日: 令和 6年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	・全職員にBCPが浸透していない。	・全職員がBCPを理解し取り組むことができる。	・防災意識の啓発→定期的な訓練、シュミレーションの実施。 ・水・食料の備蓄などの周知。 ・安否確認も含めルール化を徹底する。 ・机上訓練を実施し災害発生時を想定した、職員の役割、避難経路、避難場所、動き、導線を確認する。	12ヶ月
2	40	・コロナ禍の影響もあり外出機会が減少している。	・行動範囲を少しずつ広げ外出機会を設けることができる。	・コロナ禍の状況に配慮しながら、地域に出掛ける機会を設けていく。 ・コロナ禍の影響等を考慮しながらも、月1回程度散歩や外食、出前等非日常的な食事機会を企画する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。